

事務事業名		有償バス利用促進活動事業				評価区分(事前評価・事後評価)			事後評価(A・B表)			
政策体系	基本目標	1	地域の特色を活かした快適なまちづくり			事業区分	担当組織	担当部	市民生活部	担当課	交通生活課	
	政策	2	住みやすい快適なまちづくり				担当係	公共交通係	担当課長名	菊地 昌之		
	施策	2	まちなかの活性化と公共交通網の整備				新規事業・継続事業	継続事業				
	基本事業	3	公共交通の利便性の向上				実施計画事業・一般事業	一般事業				
予算科目	短縮コード	会計	款	項	目	予算細事業名						
	19083	バス事業	1	1	1	有償バス利用促進活動事業						
事業計画	単年度繰り返し	事業期間	S57年度～ 年度		根拠法令 条例等	佐野市自家用有償バス条例						
						市単独事業・国県補助事業	市単独事業					
						任意的事業・義務的事業	任意的事業					
						実施方法	直営					
						事業分類	広報・広聴・啓発事業					
						リーディングプロジェクト	該当なし					
						市長マニフェスト	3-12					

1. 事務事業の現状把握【DO】

(1) 事務事業の手段・目的・結果・各指標

① 手段(事務事業の主な活動内容を記入します。)											
事業概要(具体的な事務事業の活動内容・進め方)					平成27年度実績(平成27年度に行った主な活動内容)						
・市営バスの利用促進を図るため、時刻表を作成し、並びに定期乗車券及び回数乗車券を発行する。 ・市営バスの利用促進策を講じ、利用者の増加を図る。					・平成27年4月5日ダイヤ改正時及び平成28年4月3日ダイヤ改正時の時刻表をバス車内、各庁舎、公共施設等で随時配布した。 ・犬伏線については、10町会を対象に説明会の開催及び2町会を対象にお知らせの配付・回覧を行った。 ・仙波会沢線については、3町会を対象に説明会の開催及び4町会を対象にお知らせの回覧を行った。 ・定期乗車券及び回数乗車券の発行を行った。 ・バス・エコ・サポーターズクラブ会員及び夏休み子どもバスポート会員の募集を行った。 ・町会、育成会、老人クラブ、小学校等と連携し、バスの乗り方教室を4回開催した。						
活動指標					単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)	
時刻表作成部数					部	25,000	10,000	9,400	9,400		
利用促進策					件	6	7	7	7		
② 対象(この事務事業は誰・何を対象としていますか?)											
市民					対象指標	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(見込)	29年度(見込)
市人口					人	123,182	122,582	121,522	120,683		
目的											
③ 意図(この事務事業によって、対象をどのような状態にしたいのですか?)					成果指標						
市営バスの利用者数を増やす。					単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)	
市営バス利用者数					人	115,819	121,292	124,932	130,000		
④ 結果(どのような結果に結びつきますか?)											
① 市民が公共交通を快適に利用できる。 ② 公共交通が利用者ニーズに応じ、充実したものになっている。					上位成果指標						
市内を運行するバスの利用者数					人	296,233	303,984	305,452	315,000		
市内を運行するバスの路線数					路線	8	9	9	9		

(2) 総事業費の推移・内訳

事業費 投入量	財源内訳	単位	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	29年度(目標)		
	国庫支出金	千円							
	県支出金	千円							
	地方債	千円							
	その 他	千円	394	240	250	430			
	一般会計	千円							
	その他	千円							
	一般財源	千円							
	事業費計(A)	千円	394	240	250	430	0		
	事業費の内訳	千円	項目	事業費	項目	事業費	項目	事業費	
		需用費	394	需用費	240	需用費	250	需用費	430
人件費	人	3	3	3	3				
のべ業務時間	時間	755	884	800	790				
人件費計(B)	千円	2,938	3,484	3,115	3,076	0			
トータルコスト(A)+(B)	千円	3,332	3,724	3,365	3,506	0			

事務事業名	有償バス利用促進活動事業	担当部	市民生活部	担当課	交通生活課	担当係	公共交通係
-------	--------------	-----	-------	-----	-------	-----	-------

(3)事務事業を取り巻く環境変化・市民の意見等

①この事務事業は、いつ頃、どのようなきっかけで開始しましたか？	民間の路線バス事業の撤退により、町営バスとして旧田沼町では昭和62年1月から、旧葛生町では昭和57年5月から運行することとなったため、この事業を開始した。
②事務事業を取り巻く環境(対象者や国・県などの法令等、社会情勢など)は事務事業の開始時期や合併前と比べてどのように変化していますか？	モータリゼーションの進展や地方の過疎化などの社会状況の影響を受けて、市営(町営)バス利用者数は年々減少したが、平成20年10月1日の路線再編後は増加傾向にある。
③この事務事業に対して、関係者(市民、議会、事務事業対象者)からどのような意見・要望がありますか？	なし

(4)前年度の評価結果に対する改革・改善の取組

前年度の評価結果	評価結果を受けて行った具体的な改革・改善の取組
事業のやり方改善(成果向上の見直し)	<ul style="list-style-type: none"> ・犬伏線及び仙波会沢線の路線の見直しに伴い、説明会の開催及びお知らせの配付・回覧を行った。 ・時刻表の配付並びに定期乗車券及び回数乗車券の発行を行った。 ・利用促進策として実績のある夏休み子どもパスポート会員の募集を行った。 ・町会、育成会、老人クラブ、小学校等と連携してバスの乗り方教室を開催した。

2. 事務事業の事後評価【Check】

目的 妥当性 評価	①政策体系との整合性 この事務事業の目的(対象・意図)は、政策体系(結果)に結びついていますか？	結びついている	理由・改善案	市営バスの利用を促進することは、公共交通の利便性の向上に結びついている。
	②公共関与の妥当性 なぜこの事務事業を市が行わなければならないのですか？ 民間やNPO、市民団体などに委ねることはできませんか？	市が行わなければならない	理由・改善案	市営バスの利用の促進であるため、市が行わなければならない。
	③対象・意図の妥当性 事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す必要がありますか？	妥当である	理由・改善案	市営バスの利用を促進することにより、市営バスの利用者が増加するため、対象と意図は合っている。
有効性 評価	④事務事業の成果向上余地 事務事業の成果は出ていますか？ 事務事業のやり方・進め方を見直すことで成果を向上させることができますか？	成果向上余地がある程度ある	理由・改善案	様々な利用促進策を講じることにより、市営バスの利用者が増加するため、成果向上の余地はある。
	⑤類似事務事業との統合・連携の可能性 類似の目的や活動形態を持つ他の事務事業がありますか？ ある場合は、その事務事業との統合・連携ができますか？	類似事務事業はない	理由・改善案	類似事務事業名 なし
効率性 評価	⑥事業費・人件費の削減余地 事務事業の成果を低下させずに事業費・人件費を削減することができますか？	削減の余地はない	理由・改善案	<ul style="list-style-type: none"> ・事業費の主なものは時刻表の作成費であり、必要部数の印刷であるため、これ以上の削減の余地はない。 ・業務所要時間は、利用促進に必要な時間数であるため、人件費を削減することは難しい。
	⑦受益者負担の適正化余地 この事務事業の受益者は誰ですか？事務事業の目的や成果から考えて受益者負担を見直す必要がありますか？	現在の受益者負担は適正である	理由・改善案	市営バスの利用者から運賃を徴収しており、受益者負担は適正である。
総合 評価	⑧本事業の休止・終了条件(本事業はどんな状態になれば休止・廃止、事業終了となるか？)			
運行形態が道路運送法第78条による自家用有償旅客運送から同法第4条による一般旅客自動車運送事業に切り替わった場合又は市営バスが廃止された場合は、廃止することができる。				

3. 評価結果の総括と今後の方向性【Action】

(1)今後の事務事業の方向性		(2)改革・改善による期待効果	(3)改革・改善を実現するうえで解決すべき課題(壁)とその解決策																							
事業のやり方改善(成果向上の見直し)		廃止・休止の場合は、記入不要×の領域は改革改善ではない。	様々な利用促進策を講じて、急激な増加は望めないため、継続的に利用促進を行う。																							
* 評価結果に基づいた改革改善案を記入します。(複数ある場合は、①②・・・と記入します。現状維持の場合は記入しません。)		<table border="1"> <tr> <td colspan="2"></td> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <td colspan="2"></td> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td>○</td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td></td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>				コスト					削減	維持	増加	成果	向上		○		維持			×	低下		×	×
				コスト																						
		削減	維持	増加																						
成果	向上		○																							
	維持			×																						
	低下		×	×																						
効果的な利用促進策を講ずる。																										